

No. **14**
2004.Aug.



2004年 イベント学会研究大会・総会

イベント・マネジメントを成功させるために ~Plan-Do-Check-Actionからの視点~

CONTENTS

- ◆プログラム／開会挨拶 堺屋太一 P2
- ◆特別講演 P3
- 『失敗知識の活用~イベントを成功に導く法則~』 飯野謙次
- ◆研究報告 P3
- 『イベント評価の研究~評価研究の現状と研究の方向』 岩崎博
- ◆発表 P4~5
- 『「ウオーキング大会」の全国展開におけるイベント・マネジメント』 木谷道宣
- 『「浜名湖花博」におけるマネジメント点検』 橋本茂
- 『地球の若者と若手俳優が創るシェイクスピア劇~志のマネジメント~』 的場朱美
- ◆パネル・ディスカッション P6~7
- 『イベントの現場をマネジメントの視点から分析する』
- ◆2004年度総会報告 P8
- ◆学会員リレーエッセイ『イベント雑感』 P10~11
- ◆インフォメーション P12



イベント学会会報「イベントロジー」
EVENTOLOGY

2004年度研究大会・総会プログラム

2004年7月2日、イベント学会2004年度研究大会が、東京グリーンパレスで開催された。今回のテーマは「イベント・マネジメントを成功させるために」。失敗知識によるイベント成功法則、イベント評価、マネジメント点検について等、多様な論点で幅広い発表がなされた。

- 13:00 開会挨拶**
 堺屋太一 イベント学会会長
- 13:20 特別講演**
 『失敗知識の活用 ～イベントを成功に導く法則～』
 飯野謙次 特定非営利活動法人 失敗学会 副会長
- 14:10 研究報告**
 『イベント評価の研究 ～評価研究の現状と研究の方向』
 岩崎博 (社) 日本イベント産業振興協会 客員研究員
- 14:30 研究発表①**
 『『ウォーキング大会』の全国展開におけるイベント・マネジメント』
 木谷道宣 (社) 日本ウォーキング協会 専務理事
- 14:50 研究発表②**
 『『浜名湖花博』におけるマネジメント点検』
 橋本茂 (財) 静岡国際園芸博覧会協会 広報部長
- 15:10 研究発表③**
 『地域の若者と若手俳優が創るシェイクスピア劇～志のマネジメント～』
 的場朱美 (有) オフィスマとば 代表
- 15:40 パネルディスカッション**
 【パネリスト】岩崎博・(社) 日本イベント産業振興協会
 客員研究員／木谷道宣・(社) 日本ウォーキング協会 専務理事
 ／橋本茂・(財) 静岡国際園芸博覧会協会 広報部長
 ／的場朱美・(有) オフィスマとば 代表
 【コーディネーター】宮地克昌・福山大学 客員教授
- 16:20 閉会**
- 16:30 2004年度年次総会**
 【議長】堺屋太一 イベント学会会長
- 17:10 懇親会**

イベント学会とは

イベント研究者のみならず、さまざまな分野の研究者、技術者、専門家や実務者が経験や知識の多少にかかわらず参加し、積極的な相互作用を通じて「異質な知と技能のメルティング・ポット(るつぽ)」となる学会です。

多様な専門、異なった立場から提示される知識、ノウハウ、経験がときに競合し、干渉しあい、やがてそれらが共鳴・交響して、創造的に共同成果を生み出すような機会と場を創り出すこと、それこそがわれわれのめざす新しい学会です。

開 会 挨拶



イベント学会会長
 堺屋 太一 氏

昨年のセ・リーグの観客動員数は1350万人、パ・リーグは1017万人。悪くない数字です。また、野球は、中継が年間100試合、スポーツニュースでは全試合紹介するし、新聞ではシーズン中は二面を割きます。従来は、「これを計算すれば、非常に広報価値が高い」「30億円のプロ野球加盟権を支払っても、毎年10億円から20億円がかかって安いんだ」と言われました。ところが、近鉄とオリックスが合併するという話がでています。近鉄球団を買う会社が無いんですね。これだけ、テレビ・新聞に出ても広報価値がないと判断されたわけです。

近代工業社会では、モノの価値は客観的だったので、会社や商品の知名度を高めれば沢山売れましたが、知価革命が進むと、モノの値打ちが主観的になる。特定の人々に評価される主観的価値を高めなければなりません。プロ野球によって知名度があがっても、個別の商品の価値が高まるわけではない。

知名度優先のイベントから知価創造のイベントへの大転換。プロ野球に限らず、これが今の私たちが遭遇している問題だと思います。

Profile

【さかいや・たいち】

1935年大阪生れ。東京大学経済学部卒業後、通商産業省入省。日本万国博覧会、沖縄海洋博等を手掛ける。1998年から2000年まで経済企画庁長官。現在、東京大学先端科学技術研究センター客員教授。早稲田大学大学院ファイナンス研究科客員教授。

失敗知識の活用

～イベントを成功に導く法則～

失敗学会 副会長

飯野 謙次 氏



「個人も会社も団体も、成功体験だけでは新たな問題に直面した際に、立ちすくんでしまう。失敗経験こそが柔軟な対応力を育む」

失敗学は失敗の必要性を理解することから始まります。失敗は否定的に捉えられがちですが、失敗を経験すると、人には「受け入れの素地」ができます。「次は失敗しないように」と貪欲に知識を仕入れ、自ら考える。その結果、本当の知識が体に染みつき、成功体験だけでは培われない、条件変化に俊敏に対応できる力を手にいれられるわけです。

失敗を人に伝えることも重要です。その際には具体的なエピソードで必ず伝える。例えば「うっかり駅の停止線を越え停車した」という運転士の失敗談もそれだけでは意味が無い。「娘の手術が4時からで、運転中時計を見ると午後4時。思わず頭が真っ白に」と具体的な話を加え初めて他者も疑似体験できる。真の知識として深く心

に残せるわけです。

また失敗学は「失敗を人のせいにする」学問ともいえます。失敗に対して謝罪だけするのが一番まずい。原因究明の力が弱まります。「自分のせいじゃない」と聞き直り、周囲を巻き込んで原因究明する。するとまずい部分がはっきり見え、対策も練れるわけです。

イベントにおいても失敗から多くを学び、大きな成功を導き出して頂ければ幸いです。

Profile

【いの・けんじ】

特定非営利活動法人「失敗学会」副会長。SYDROSE LP社長。1959年生まれ。東京大学大学院工学系研究科卒業後、GE原子力部門入社。スタンフォード大学機械工学・情報工学博士課程卒業。



「標準化の第一歩として、3団体が採用しているイベント評価手法を一つの図表で表した。今後も情報交換を進めたい」

イベント評価の研究

～評価研究の現状と研究の方向～

(社)日本イベント産業振興協会 客員研究員

岩崎 博 氏

Profile

【いわさき・ひろし】

有限会社エスシー・プランニング・オフィス代表。イベント学会会員。合意形成研究会会員。イベントや地域活性化に関するプロジェクトマネジメントおよびコンサルティングを専門分野に活躍する。

昨今、イベントプロジェクトに対する評価には厳しい目が向けられています。クライアントが民間でも行政でもアカウンタビリティの高まりから「イベントの効果を客観的な数値で説明しろ」と強い要望があるわけです。

こうした背景もあり、今年5月、イベント学会の分科会として『イベント評価マネジメント研究会』を発足致しました。意見交換・研究開発・普及啓蒙を通して、多様なイベントに活用できる「標準的な評価マネジメント手法」を作り上げようというわけです。

第一回目では、すでに各自が個別に採用しているイベント評価手法について意見交換致しました。アンケートで来場者の認識変化を探る電通の「D.E.E.M」。展示会

を対象に各ブースを相互比較調査する日経BPコンサルティングの「ブースイメージ調査」。そして地方自治体向けにPDCA (Plan・Do・Check・Action) サイクルに即し帳票整理するイベント産業振興協会の「E-Value」です。

こうした事例を同じテーブルに積み上げ、活発な意見交換の場とする。これを継続させることで、合理的な評価マネジメント手法の確立を目指していきたいと考えております。

『ウォーキング大会』の全国展開におけるイベント・マネジメント

(社)日本ウォーキング協会 専務理事

木谷 道宣 氏

日本ウォーキング協会は今年、設立40周年を迎えました。1963年、早稲田精神昂揚会の学生5人がアメリカ大陸を歩いて横断したことに端を発し、翌年、オリンピック開催中の東京を70名で歩いたのが始まりです。

大会運営に転機が訪れたのは、1975年。NHKの国際ニュースで、4万人もの参加者が同時に歩くオランダ『国際フォーデーマーチ』の存在を知り、翌年には視察を。77年には39人の日本選手団を組織して参加し、イベント運営のノウハウを学びました。そして78年、群馬県新町で開催したのが、第1回『日本スリーデーマーチ』です。第3回目

からは拠点を埼玉県東松山市に移し、今年11月の大会で27回目を迎えます。

1日600人程度の参加者から始まった『日本スリーデーマーチ』は、試行錯誤を重ねながら徐々に環境や体制を整え、10万人規模のイベントへと成長しました。近年、日本各地で開催されるようになったウォーキングイベントに、同大会の運営ノウハウが生かされているのは、間違いないでしょう。

高齢化社会の到来、健康・自然志向の高まりによって、ウォーキングの波は広がる一方です。現在、指導者の育成と全国的な組織づくりを急いでいます。



▲海外有名イベントを規範に運営ノウハウを構築

Profile

【きたに・みちのぶ】

(社)日本ウォーキング協会専務理事。1964年、同協会設立に参画。常務理事・事務局長を経て、94年、現職に就任。スポーツウォーキングの普及を通じ、平和で健全な社会の実現を目指している。

地域の若者と若手俳優が創るシェイクスピア劇 ～志のマネジメント～

(有)オフィスまとは 代表
的場 朱美 氏

【まとは・あけみ】

映画、演劇の創作を目指し、芸能プロダクションで修業の後、1981年、(有)オフィスまとは設立。近年では“島プロジェクト”主催のほか、書籍『処女航海』(幻冬舎)などのプロデュースを手がける。

Profile

農村歌舞伎の舞台でシェイクスピアの『真夏の夜の夢』を上演する…。演劇イベント“島プロジェクト”は、芝居に情熱を傾ける一人の少女と、彼女の志を育んだ香川県小豆島の風土、これらとの出会いから生まれました。

私が、演劇をイベントと捉え、プロジェクトを立ち上げた理由は、大きく2つ。

ひとつは、演劇の持つ力です。演劇は、生身の人間同士がひとつの空間を共有し、2度とない興奮と感動を呼び起こす真



「浜名湖花博」における マネジメント点検

(財)静岡国際園芸博覧会協会 広報部長

橋本 茂 氏

浜名湖花博の目標入場者数は500万人。これは冒険ともいえる数字でした。半径100km以内の日帰り圏の人々をメインターゲットにしたのですが、その地域の人口は1000万人に満たないからです。目標達成にはリピーター獲得が不可欠。そこで、「良い環境の中で感動していただき、関心を持っていただく」、この3カンを主眼に置き、お客様に何度も来ていただける会場づくりを心がけました。

まず、感動が得られるよう、花のボリュームを過去の花博よりも増やし、500万株を揃えました。「自宅のガーデニングの参考にしたい」方に関心を持ってい



◀会場内を案内する車をなくしたかわりに、900mの水路を設け、ボートを運航。水辺から花を楽しめるようにしている。本花博は10月11日まで開催予定

ただけるよう、品種も6000種を用意。「モネの庭」の再現など、演出にも力を入れています。

環境面では、ゆったり歩きやすいよう、会場内の勾配を4%以下にとどめ、観覧用の車を廃止しました。その代わりに900mの水路を設け、水辺で花を楽しめるようにしました。また、日陰になる休憩所を100mごとに計9000席設け、女性トイレを増やしました。

結果、入場者数は会期半ば前に275万人を達成。全期間券を買ったリピーターも全体の13%に上り、皆勤賞の方もいらっしゃいます。今後は、夏場に向けて新たな魅力を用意し、入場者目標を達成したいと考えています。

Profile

【はしもと・しげる】

(財)静岡国際園芸博覧会協会 広報部長。
スズキ(株)広報グループ長を経て、浜名湖花博の運営主体である(財)静岡国際園芸博覧会協会に転出。現在は、浜名湖花博の広報活動を手がける。



剣勝負の場。この1回性こそイベントの真髄であり、テレビやインターネットを通じた娯楽に慣らされ、人間本来の鋭い感受性や想像力、生き生きとしたエネルギーを失いがちな今だから、求められているものだと考えます。

もうひとつは、人材育成。すなわち、未来への投資です。俳優だけでなく、衣装、舞台美術、照明、演出家など、多岐に渡る人材を、イベントを通して総合的に育てるマネジメント戦略が根底にあるわけです。

小豆島での第1回目、直島での第2回目と、公演は大成功を収めました。第3回目の今年は、9月23日、四国・金毘羅宮表書院で『真夏の夜の夢』を上演いたします。

“Show must go on”。一夜限りの夢舞台が、イベントとして継続性を持ち、新たな意義が生まれるのを感じています。



▲役者と観客が一体となった、「島プロジェクト」

イベントの現場を マネジメントの視点から分析する

イベントと国際化

宮地 最初に「地域のアイデンティティと国際化」についてお伺いしたいと思います。

的場 人口3000人の直島で『夏の夜の夢』を開催した時には、1000人の方に関わって頂きました。日本語を勉強しに来ている外国の方をメインにキャスティングして、地域の方たちとのコラボレーションをいたしました。子供たちにとっては、「初めて聞くフランス語や中国語は新鮮だった」という報告を受けています。

岩崎 マネジメントとして興味を持ったのは、島の方がどのくらい関わったのか。小豆島の公演では30,000人の島に1000人が来場して、50人の方が芝居の制作に直接に関わった。家族も含めれば200人くらいの方々が舞台を作ったわけです。このような点に大変、興味があります。次は、どんな舞台を考えているのですか？

的場 小豆島、直島、金比羅では『夏の夜の夢』でしたが、来年、上演予定の人口83人の犬島を見た時、「この

島は『マクベス』だ」とインスピレーションがわきました。この島に残された銅の精錬所の跡地を舞台として利用し、観客は幕ごとに移動する…。このように、それぞれの島の文化と人とロケーションを生かした芝居をやっていきたくと思っています。

宮地 ウォーキングの分野も、随分と国際化がすすんでいるようですが。

木谷 世界23カ国で「国際マーチングリーグ」というものを作っており、そのうち8つに参加すれば「国際マスターウォーカー」、15に参加すれば「オリーブ賞」がもらえます。ですから、日本のウォーカーも、ルクセンブルクやアイルランドなど、旅行者があまり行かない国にどんどん出かける。現地に行けば、「ようこそ、遠い日本から。うちも国際的になった」と、市長さんのパーティーなどに招かれる。語学ができなくても、20〜30キロを一緒に歩き、同じ釜の飯を食べれば連帯感も生まれるし、次は、あの国に行こうとなる。これが「ウォーキングの国際化」の魅力だと感じています。

開かれたイベント

宮地 ここで「イベント評価」をどのように考えていけばよいのか、岩崎さんに説明していただきたいのですが。

岩崎 「評価とは数字で何らかを明らかにすること」といえば、非常に冷たい感じがします。でも、ただ集まって「うまくいったね」でも困るわけです。私は、評価には「客観的に物事を見る」、あるいは「多くの人に参加する取っかかりができる」という意味があると思っています。



▲岩崎博氏(左)・木谷道宣氏(右)

懇親会

学会大会、年次総会終了後、会場を移し、恒例の懇親会が開催されました。

まず、堺屋太一会長の挨拶。続く望月照彦副会長の挨拶では浜名湖花博準備に奔走され、オープンを見ることなく亡くなられたイベント学会理事の森下慶子さん、野村万之丞さん、

それに内野二郎さんの思い出に触れ、功績をたたえました。

乾杯の音頭は成田豊理事長から頂きました。会員の他、大会の報告者、ボランティアで運営を手伝った順天堂大学の学生達も参加。懇親だけではなく、活発な意見交換の場にもなりました。



▲生前の森下さんの思い出に触れる望月照彦副会長

イベントをマネジメントの視点から考えればどうなるのか。
宮地克昌氏のコーディネートで、4人の発表者に「国際化」
「失敗点や改善点」「評価手法」などをマネジメントの視点
から論じていただいた。



宮地克昌氏 ▶

コーディネーター

福山大学客員教授 宮地 克昌氏

パネリスト

(社)日本イベント産業振興協会 客員研究員 岩崎 博氏
(社)日本ウォーキング協会 専務理事 木谷 道宣氏
(財)静岡国際園芸博覧協会 広報部長 橋本 茂氏
(有)オフィスまとは 代表 的場 朱美氏

客観的な評価があれば、初めて来た人でも判断できるし、安心して楽しめる。このようなオープン性がイベント評価の中にあります。3人のお話でも、「開かれたところをどう創っていくか」「開かれた活動をより開くためにはどうすればいいか」ということが、実はマネジメントだとわかります。本当に開かれていることを実証することが「標準的な評価」。今日の発表でも、そういったことが何らかの数字で出てきているのではないかと思います。

宮地 花博について伺いたいのですが。現場を通して浮き上がってきた失敗点や改善点などはありますか。

橋本 これまでの経験と花博独自の違いは、事前PRが非常にやりにくいところ。お客さんに、一番、花のきれいな時期を見ていただくために、花は開会1週間くらい前に一気に植える。ですから、旅行社や報道関係の方に、事前に花をお見せできない。事前PRのために、会場を案内しても花がないからイメージがわからない。

宮地 交通対策は成功しているようですね。

橋本 花博のために、688億円かけて道路も整備されました。10年先を考えた道路整備でした。会場にお越しいただくにあってもパーク・アンド・ライド方式を採用しました。高速道路のトールゲートも増やしていただきました。GWの時の来場者は7万人以上でしたが、少し渋滞し、その時は閉館時間の延長をしました。その時以外は渋滞もなく、概ねスムーズでした。

宮地 花博会場や島では、信号がないので、ウォーキングのようなものもできるのでは？



▲橋本茂氏(左)・的場朱美氏(右)

木谷 せっかく活性化につながるようなアイデアも、役所の人から見れば「また仕事が増えるのか」ということになる。結局、「現地の自治体のみなさんに迷惑をかけないようにして我々がやるから」という話にしないと持続性がない。そういう意味でも、公開性を高めて参加者も一緒につくっていくということが大切になりますね。

- 高齢者の参加が多いウォーキング大会では、「水分補給の大切さ」や「運動直後にアルコールを飲むことの危険性」を教えるといったリスクマネジメントが重要。
- 舞台、演劇をやるにあたって、まず大切なのは、演出家、スタイリスト、メイク、音響などいろいろな分野の人が育っていくこと。最近、徐々に、その萌芽が見えてきた。
- 花博の跡地は公園になるし、新しい道路周辺は住宅地やSCの建設予定がある。10年先を見越した町づくりをすれば、博覧会や新しい道路が街の活性化につながっていく。

本文以外にも、上記のような発言がありました。詳しくは、後日別送の発表論文集をご覧ください。



▲お酒も入り、会員、講師、学生がざっくばらんに意見交換



開会の挨拶は原屋太一会長 ▶

乾杯の音頭を取る
成田豊理事長 ▶



2004年度総会報告

7月2日（金）、東京グリーンパレスにて研究大会終了後2004年度総会を開催。会員145名（委任状36）の参加をえて審議を行った。

本年度はイベント学の研究環境の向上に重点をおき①イベント学研究に対する助成金制度の新設（本会報裏表紙参照）、②イベント会懇談会（会長以下の役員と会員が「私のイベント学」を語り合うフォーラム）の恒例化、③新たに関西支部を設立し、東西それぞれの学のイベント学を発展させる、などの新しい活動を開始することとした。

決算・予算

次の2003年度決算案および2004年度予算案を審議、承認した。

科 目		2003年度決算	2004年度予算	科 目		2003年度決算	2004年度予算
I. 収入の部	会 費 収 入 計	11,177,000	10,200,000	II. 支出の部	管 理 費 計	6,252,982	5,600,000
	特別会費収入 計	4,900,000	0		事 業 費 計	11,876,582	5,000,000
	事 業 収 入 計	2,455,000	400,000		そ の 他	0	0
	当 期 収 入 合 計 (A)	18,532,000	10,600,000		当 期 支 出 合 計 (C)	18,129,564	10,600,000
	前期繰越収支差額	59,815	462,251		当 期 収 支 差 額 (A-C)	402,436	0
	収 入 合 計 (B)	18,591,815	11,062,251		次 期 繰 越 収 支 差 額 (B-C)	462,251	462,251

役員人事

5月に行われた個人会員役員選挙および会長・理事長推薦の結果、下記の通り新役員の顔触れが決まった（任期2年）。

■イベント学会役員名簿

[法]は法人会員

役職名	氏 名	所 属	役 職
会 長	堺屋 太一	(株)堺屋太一研究所	代表
理事長	成田 豊[法]	(株)電通最高顧問	電通グループ会長
副会長	井関 利明	千葉商科大学政策情報学部	教授
副会長	北本 正孟	(株)カントリー	代表取締役
副会長	橋爪 紳也	大阪市立大学大学院	助教授
副会長	間宮 聡夫	日本大学大学院	
副会長	望月 照彦	多摩大学	教授
副理事長	久米 安雄[法]	TSP太陽(株)	代表取締役社長
副理事長	乃村 義博[法]	(株)乃村工藝社	代表取締役社長
副理事長	森 隆一	(株)電通	常務取締役
常務理事	川本 直彦	イベント学会	事務局長
理 事	秋岡 栄子	E&Cブリッジズ	代表
理 事	浅葉 克己	(株)浅葉克己デザイン室	代表
理 事	足立 直樹[法]	凸版印刷(株)	代表取締役社長
理 事	稲垣 正夫[法]	(株)アサソーディ・ケイ	代表取締役会長
理 事	川村 治[法]	(株)テー・オー・ダブリュー	代表取締役社長
理 事	北島 義俊[法]	大日本印刷(株)	代表取締役社長
理 事	三枝 成彰	(株)メイコーボレーション	代表
理 事	佐藤 洋樹[法]	(社)日本イベント産業振興協会	常務理事事務局長
理 事	谷 喜久郎[法]	(株)新東通信	代表取締役会長
理 事	永利 久志[法]	(株)東急エージェンシー	取締役会長
理 事	野川 春夫	順天堂大学スポーツ健康科学部	教授
理 事	福川 伸次	(社)日本イベント産業振興協会	会長
理 事	堀田 正人	(社)日本イベント産業振興協会	本部長
理 事	マリ・クリスティーン	(有)エムキューブ	社長
理 事	宮川 智雄[法]	(株)博報堂	取締役会長
理 事	宮木 宗治	(社)日本イベント産業振興協会	本部長
理 事	山本 寛斎	(株)山本寛斎事務所	代表
理 事	渡辺 亮[法]	(株)丹青社	代表取締役社長
監 事	園田 栄治	(株)インタープラン	代表取締役社長
監 事	藤江 俊彦	千葉商科大学政策情報学部	教授

追悼

昨年から今年にかけ、イベント学会のみならず、日本のイベント業界を牽引し続けてきた、森下慶子理事、野村万之丞理事。そして『イベント学会5周年記念東京大会』で感動的な講演をいただいたミュージック・リーグの内野二郎理事が、相次いで亡くなりました。このページでは、お三方にゆかりの深い方々に、追悼の手記をいただきました。

森下慶子理事への追悼文

森下慶子さんは私たちにとって何だったのだろう。失ってみると、そのかけがえのない力に気付く。

ものごとをある方向づけで動かす起動力。「安全安心まちづくり」「都市観光を創る会」「都市イベント学会」そして「都市イベント企画会議」等々。その動きのイナーシャ（慣性力）は彼女に負うところが大きい。そして、それらの仲間たちは彼女の活性や要素によって転がり、廻りはじめる。廻りはじめた群の動きは、炎の中のジャンヌ・ダルクのような、彼女の方向指示によって重戦車化する。あるいは中国古代の商の軍勢の先頭に立った巫女としての彼女。敵の軍勢の神々を呪い、地の霊を鎮め、戦意を喪失させることによって、自軍の勝利へと導く。あるいは、多くを従え自らの地平を統べる女帝。いずれも慶子さんの一面を捉えているような気がする。その消滅は、その流れに沿って流れようとしていた人々の希望や夢を打ち砕き、淡い破壊へと導く。

「馬鹿言ってんじゃないよ」との一喝。あの声はもう聞けない。ありがとうございました慶子さん。どうぞ安らかに眠りください。

（株）都市計画設計研究所代表取締役 南條道昌



2003年11月16日没 享年55歳

野村万之丞理事への追悼文

記憶に留めておいて欲しい。凄い男がいたことを。今思えば、平成の怪物だった。が、あっという間にこの世を駆け抜けて逝ってしまった。和泉流狂言師・野村万之丞。享年44歳。彼は、「躍」という言葉が好きだったという。躍動、跳躍、飛躍。まさに彼の生き方そのものだった。残念なのは、ちょっと跳びすぎてしまった。何も天国まで跳ぶ必要はなかったのに。

大学教授、プロデューサー、演出家、執筆家、NHK大河ドラマの芸能考証等々、多くの顔を持つ男は、仮面に人一倍こだわった。シルクロードを逆流し仮面の道を辿るマスコールドプロジェクト「真伎楽」は、21世紀の新たな文化の創造を提唱する壮大なスケールをもったものだった。伝統芸能を現代に蘇らせた「大田楽」は、今、各地の地域振興を目的とした祭りやイベントとして根付いてきた。超ハードスケジュールの中、イベント学会でもご活躍頂いたことに感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

イベント学会理事 宮木宗治



2004年6月10日没 享年44歳

内野二郎さんへの追悼文

内野さんとの最初のビッグイベントは、66年のビートルズ招聘でした。当時はドル枠に制限があり、加えてステージと客席が分離した開催会場の制約のため、NTV発で名古屋のみTBS系のCBCの変則ネットでの放送となりました。

75年のニニ・ロッソを中心にしたニッポン放送の「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」は29年続いており、音楽をイベント化した先駆者でした。

イベント学会には音楽関連の理事が不在でしたので、無理に立候補をお願いして、03年の学会5周年大会時に「プロモーター・スピリッツ」を訥々と話をされ、聴衆に深い感銘を与えました。同年の暮れには、積年の懸案であった日本の歌を残す目的で、阿久悠氏と「翔歌」のコンサートを実現しました。

自分の人生は悔いなく送れたとして生前葬をされ、遺言により内野家の墓所に一部納骨の上、秋には、分骨されたご遺骨はエーゲ海に散骨をされる予定です。

イベント学会副会長 間宮聡夫



2004年6月15日没 享年76歳

イベント雑感 第3回

「観光立国」実現のためのイベント、 「世界温泉会議」の開催を！

永井 弘

学会員が、イベントまたはイベント学に関して日々思うことを提言していく『イベント雑感』。第3回目の今回は、イベント学会会員で、(株)日経BP社・編集委員室主任編集委員の永井弘氏より、「観光立国を実現する、イベントの開催を」と提言をいただきました——

EU(欧州連合)に今年5月、加盟したハンガリーを訪れる機会がありました。ハンガリーは観光収入がGDP(国内総生産)の約1割に相当するというバリバリの「観光立国」です。海外からの観光客は年間1500万人を数え、これは堂々の世界第12位です(ちなみに、日本は第35位)。

ご存知のように、日本でも小泉首相が自ら陣頭に立つ「観光立国」政府プロジェクトが進行中です。これまで、観光＝遊びと位置づけられていた観光業を、国の基幹産業に格上げしようという政策です。具体的には、2010年までに外国人旅行者を1000万人に倍増する目標を掲げ、プロジェクトを推進しています。昨年4月に本格スタートした、官民挙げての「ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)」はその一環です。

「日本の観光業には産業横断的に何かを生み出そうという発想が欠けており、その結果、国際競争力が伴ってこなかった」と指摘する向きは少なくありません。そうした弊害を打破しようという動きが、中央官庁や、地方自治体、観光関連企業・団体などが大同団結して進めている「観光立国」プロジェクトであり、VJCなのです。

とはいえ、「観光立国」の実現は、「日暮れて道遠し」との観が否めません。

昨年12月東京で開催された「ツーリズムサミット2003」の主催者あいさつの中で、奥田碩・日本経団連会長がこう語りました。

「日本を訪れる外国人旅行者524万人と、日本人の海外旅行者1652万人とのギャップには愕然(がくぜん)とさせられる。我々は『観光立国』入りを果たしている国々から成功例を学ばなければならない」

私は、「観光立国」入りを果たしているハンガリーにおける観光政策を現地で取材する機会を得たわけです。日本が「観光立国」を実現するためのヒントをつかむために！

そのハンガリーにはこんな諺があります。「どこでも井戸を掘れば、遅かれ早かれ温泉が湧き出る」——。実際、国土が日本の4分の1ほどのハンガリーには1289カ所にも上る源泉があります。しかも、ハンガリーの温泉文化の起源は、古代ローマ人がローマ式の公衆浴場を建設した2000年ほど前まで遡ります。この地を16世紀から17世紀にかけて支配したオスマントルコ帝国は、トルコ式の温泉施設を次々と建設しました。地質学的な恩恵、そして、世界に冠たるお風呂好きの二大帝国による支配が「ハンガリー＝温泉大国」を生み出したのです。

現在、ハンガリー政府は、その温泉という資源を最大限生かして海外から観光客を呼び込むことに成功しています。ハンガリー政府の取っている注目すべき温泉政策は(1)全国の温泉施設に対する公的評価システムの導入：例えて言えば、フランスのホテル公的格付けにおいて3ツ星ホテルがレストランを備えることで4ツ星となるような評価(2)温泉施設に対する資金面での支援：国と民間が温泉施設の開発資金を折半する制度(3)観光PRという情報面での積極策：①世界22カ国に観光PR事務所を設置②海外で開催される旅行関連のイベント(展示会・見本市)に国内の民間企業が参加する場合、費用の75%を政府が負担する制度。

日本も「観光立国」の実現を目指すなら、ハンガリーと同じく、温泉を前面に打ち出した海外旅行客の誘致を積極的に行えばいいと痛感しました。何しろ、日本は3000カ所を超える温泉を有する温泉大国なのですから。もちろん数だけではありません。泉質の豊富さに加え、日本独自の温泉旅館は外国人にとっても魅力的です。温泉は日本におけるNo.1の観光資源であると言っても過言ではありません。

しかしながら、ハンガリー政府が行っている上記(1)(2)の政策は現実には難しいでしょう。やはり(3)のPRという情報政策が現実的で、効果的といえます。というのも、日本＝温泉大国とのイメージは海外にあまり伝わっていないからです。

ハンガリーでは、経済省と健康省が共催するイベント「第2回健康旅行博覧会」(ブダペスト)にも参加しました。ヨーロッパ諸国を中心に、外国人ジャーナリストが大挙して取材に来ていました。彼ら海外のジャーナリストは、予想以上に日本に関する深い知識をもっていました。それでも日本が温泉大国であることを知っている者はほとんどいませんでした。「健康旅行博覧会」がハンガリーの「温泉」に焦点を合わせたイベントであることを考えると、海外から取材に来たジャーナリストは「温泉」に高い関心を持っているはずですが……。



永井 弘 (ながい・ひろし)

慶応義塾大学大学院工学科修士課程修了。51歳。日経リゾート副編集長、日経イベント編集長などを経て、現在、日経BP社編集委員室主任編集委員。専門分野はホテル&リゾート、イベント。イベント学会会員。著書に「戦後観光開発史」(第24回「交通図書賞」受賞)、「東京年輪論」など。

「**宝**の持ち腐れ」という諺もあります。日本＝温泉大国を世界に向けてPRしましょう!そのために、まずは海外のジャーナリストと旅行会社に向けて情報を発信しましょう。インターネットも効果的でしょうが、やはり、実際のイベントがずしりと効くと思います。ということで、海外のジャーナリストと旅行会社の関係者を招く「世界温泉会議」(もちろん狙いは日本＝温泉大国のPR)の日本開催を、この場を借りて提案する次第です。

折しも、日本の温泉は入浴剤問題や水道水使用問題などでイメージの低下を招いています。「世界温泉会議」という一大イベントは、失墜したイメージを回復させることにも一役買うでしょう。ちなみに、温泉とイベントの関係について言えば、個別の温泉地が行う個性豊かな地域密着型のイベントが集客につながっています。海外からの集客を考えた場合は、日本独自の温泉旅館と伝統的なイベントとの融合が効果的です。

いずれにしても、「観光立国」がうたわれる今こそ、最大の観光資源である温泉とPR効果の大きいイベントを有機的に結び付けたいところです。

『イベント雑感』への寄稿募集中

このコーナーでは、学会員のみならずの寄稿を募集しております。「イベント学会への提言」「わたしとイベント」など、イベントまたはイベント学会に関してあなたが思われていることを2000字(400字詰め原稿用紙5枚)程度でまとめ、住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、下記の宛先までお送りください。なお、掲載文は一部手直しさせていただく場合があることを、ご了承ください。

宛 先

〒102-0082

東京都千代田区一番町13 (一番町法眼坂ビル3F)

「イベント学会事務局・EVENTOLOGY

『イベント雑感』係」

FAXは 03-3238-7834

イベント学会研究活動に対する助成制度のお知らせ

2004年度からイベントに関する研究と開発を支援し、その理論と技術の普及を図るために、助成制度を開設することになりました。応募手続は下記の通りです。

応募資格	イベント学会会員。個人およびグループで応募できます。
助 成 金	1件 20万円以内
応募期間	2004年9月末日まで
研究期間	2004年11月1日～2005年5月20日
応募方法	申込用紙(別添)に必要事項を記入の上、学会あてに郵送、宅配または持参してください。
応 募 先	イベント学会事務局



詳しいことはイベント学会事務局までお問い合わせ下さい。

TEL 03-5215-1680

E-mail eventlgy@kk.ij4u.or.jp

イベント学会入会手続き

- 1) 入会ご希望の方は、申込書(会員種別)にご記入の上イベント学会事務局あてご郵送下さい。
- 2) 申込者について理事会等で審議し、入会を承認された方には入会承認書と振込み案内をお送りしますので入会金(初年度のみ・準会員は不要)と年会費を指定の口座にお振込み下さい。
- 3) これ以降、会報『イベントロジー』や研究報告書、大会、部会などのご案内をお届けします。

■イベント学会会費一覧 (2004年度/円)

会員種類	入会金	年会費	備 考
1) 個人会員	5,000	10,000	個人
2) 準会員		2,000	大学生、大学院生、専門学校生など
3) 自治体会員	20,000	50,000	地方自治体
4) 法人会員(1口)	100,000	100,000	企業、団体などの法人

※イベント学会のホームページ上に会員コーナーを開設しました。ユーザー名とパスワードが必要です。事務局までお問い合わせください。